



東稜高校生にとって身近な京都市営地下鉄は、一日約35万人が利用しています。
地下鉄で被災した時の対応の仕方をご紹介します。

地震の場合

- ①まず、パニックにならない。
→震度4以上の地震が発生すると、車両は緊急停止し、車両の照明は消えてしまうが、少しすると非常用照明が点き暗闇が続く事はない。
- ②係員の指示を聞きながら先頭、最後尾車両の非常口から外に出る。
→勝手に外に出てしまうと、下にある電線に当たり**感電死**してしまう恐れがある。



車両から出た後

地上に行くには最寄り駅まで歩くしかない。
地下鉄内は崩壊や浸水などが無い限り安全だが、地下鉄トンネル内には**避難口がない**ため歩くしかない。
→地下鉄のトンネル内には、足元の壁面に最寄り駅の方角、距離が書かれたプレートがあるのでそれを頼りに最寄り駅を目指す。

浸水の場合

水かさが増す前に高い方向を目指して避難。
駅の間や、各駅にも**高低差**があるため、いち早く高い駅を目指さなければいけない。
※京都市営地下鉄では**御陵駅**が一番低く、この駅から離れるように避難しなければならない。
(御陵駅は過去に**2回**浸水している。)

2013年	台風18号	総雨量383.5mm	80cm浸水
2021年	豪雨	総雨量270mm	約50cm浸水

ホームの場合

一人ひとり秩序を守り地上を目指す。
地上へ出るには、エスカレーターが止まっている可能性があるがあるので階段を歩いて登る必要がある。
※多くの人が殺到する事で、将棋倒しになる可能性があり、特にエスカレーターは**階段より段差が高い**ため転倒の危険が増す。一人ひとり秩序を守り地上を目指さなければならない。

まとめ

地下鉄で被災したらまず地上を目指さなければならない。
冷静に判断する事と、素早い行動が必要である。